

島根原子力発電所の運転状況（平成23年7月）

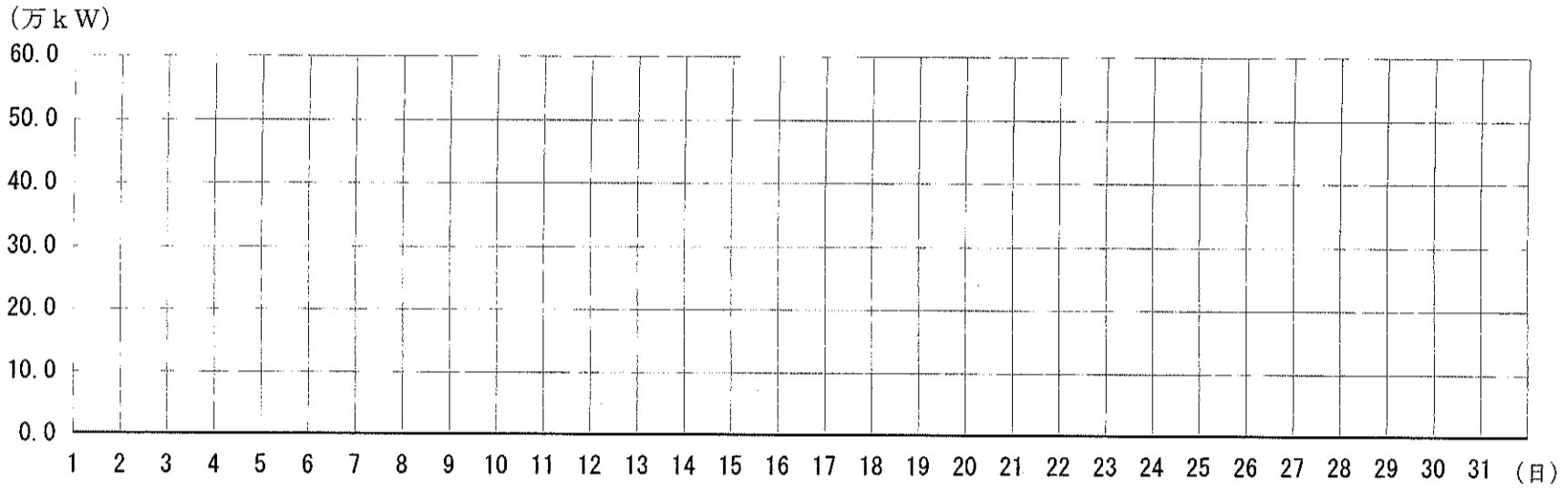
I. 1号機

1. 運転状況

発電時間 0 h 発電電力量 0 万 kWh 設備利用率 0 %

2. 主要項目

なし



3. 特記事項

別紙参照

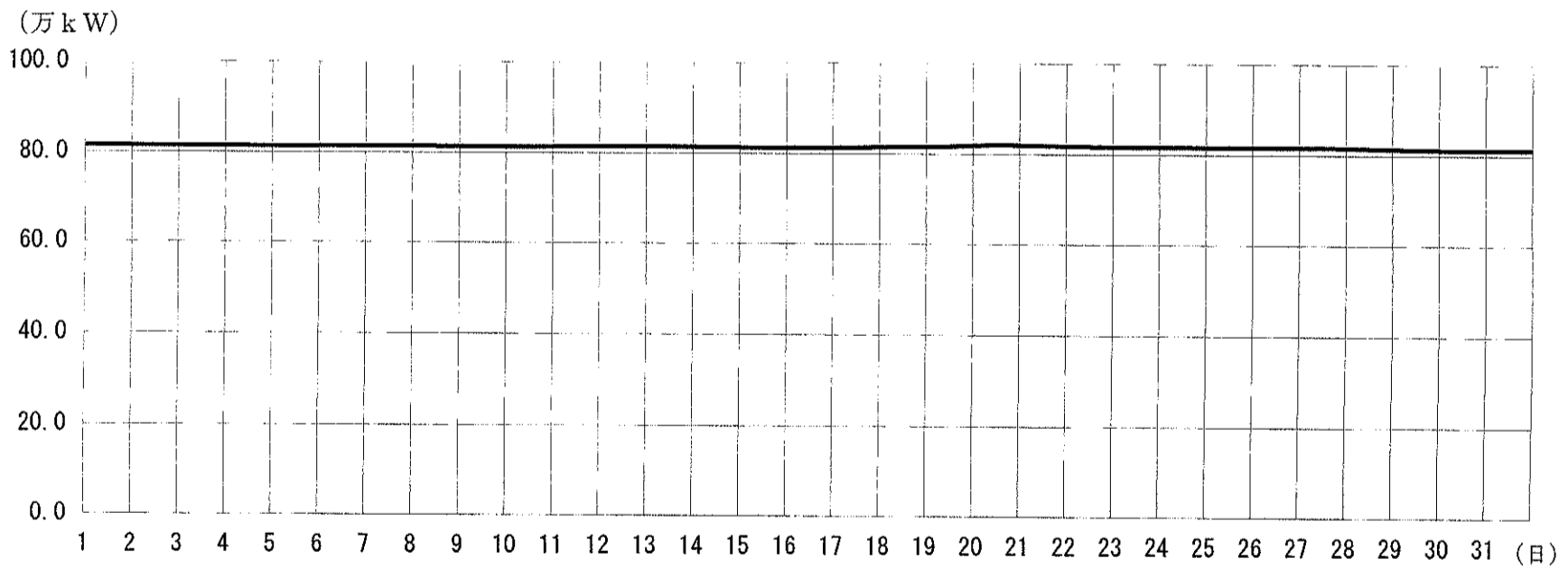
II. 2号機

1. 運転状況

発電時間 744 h 発電電力量 60,683.9 万 kWh 設備利用率 99.5 %

2. 主要項目

なし



3. 特記事項

なし

III. その他

別紙参照

【特記事項（1号機）】

（1）第29回定期検査中

（2）超音波探傷検査による点検でひびを確認したA-原子炉再循環系配管の溶接継手部2箇所について、健全性評価結果報告書を取り纏め、7月12日（火）原子力安全・保安院に提出した。

上記2箇所の配管溶接継手部および、第28回定期検査（平成21年5月7日～10月9日）にひびを確認していたB-原子炉再循環系配管の溶接継手部1箇所について、健全性が確保されることを確認しているが、現在実施している第29回定期検査中に、配管を取替ることとした。

なお、配管取替工事には諸手続きを含め、約6ヶ月を要する見込み。

【その他】

（1）平成22年9月10日（金）に発生した廃棄物処理建物1階ドラム詰室内での白煙事象について、原因調査の結果、プラスチック固化処理の反応を促進させる工程において、反応に伴いドラム缶内部の温度が上昇することに加え、ドラム詰室内の室温が高かったこと等の要因が重なり、固化処理用の薬剤に含まれるスチレンが蒸発しやすい環境となったことから、スチレンが白煙状に蒸発したものと推定した。

また、「ドラム位置不良」の警報は、ドラム缶の位置を感知する光センサーが白煙状のスチレンを感知したことにより発生したものと推定した。

ドラム詰室の設備は、従来、スチレンの蒸発を考慮した設計となっているが、スチレンの滞留を防止するため、ドラム缶上部の気体を排気する設備を新たに設置した。

（2）6月13日（月）から固体廃棄物貯蔵所B棟で低レベル放射性廃棄物を詰めたドラム缶の移動作業を実施していたところ、これまでに5本のドラム缶底面に腐食（貫通孔）があることを確認した。

当該ドラム缶底面（腐食部位）およびドラム缶が接地していた床面に放射能汚染は無いことを確認するとともに、内容物について健全なドラム缶への詰め替えを行った。

腐食ドラム缶（5本）および内容物を調査した結果、ドラム缶内面に打痕による塗装の劣化があることおよび内容物に水分があることを確認した。

このため、当面の対策として、ドラム缶内面塗装の劣化防止およびドラム缶内面への水分付着防止の観点から、ドラム缶に内装ポリ容器を施すこととした。

今後、現在実施しているドラム缶移動作業に加え、全数（約27,000本）のドラム缶を外観点検し、腐食ドラム缶が確認された場合は、原因調査および対策を講じる。

8月7日現在で、ドラム缶の外観点検は約4,400本が終了。

以上